

公共交通に関する区民アンケート調査について

1 公共交通に関する利用状況・ニーズ把握のための調査体系

公共交通に関する利用状況やニーズを把握するためには、区民と来訪者も含めた移動実態や交通ニーズを的確に把握することが必要です。そのためには、複数の手法を組み合わせた総合的な調査が求められます。

区民だけでなく来訪者（区民以外）を含めた移動実態を把握するために、携帯電話等の位置情報ビッグデータを購入し、発着地や移動の時間帯など豊島区関連の人の流れを分析・把握します。ビッグデータだけでは公共交通の利用状況や交通手段の選択理由、移動に不便を感じていることや公共交通の課題や改善要望といった定性的な意見を把握できないため、区民アンケート調査を実施します。ビッグデータと区民アンケート調査の両方を実施することで、移動実態と公共交通に関する利用状況・ニーズをしっかりと把握します。

また、移動特性別の交通手段の把握を補足するために東京都市圏パーソントリップ調査結果を分析します。

さらに、交通事業者や地域団体へのヒアリング調査を実施することで、地域交通の運行実態や課題、今後の連携の可能性を把握します。

<公共交通に関する利用状況・ニーズを把握するための調査体系>

調査	調査項目	対象：需要側		対象：供給側
		区民	来訪者	
移動実態と公共交通に関する利用状況・ニーズを把握する調査				
区民アンケート	・ 日常移動と公共交通利用状況 ・ 交通手段の選択理由 ・ 移動に関する不便の有無 ・ 公共交通の課題や改善要望	○		
携帯電話等の位置情報ビッグデータ	・ 移動区間（出発地と到着地） ・ 移動時間帯 ・ 滞在人口、滞在時間	○	○	
公共交通の課題を把握するうえで上記を補完する調査				
東京都市圏パーソントリップ調査	・ 移動目的、交通手段 ・ 移動区間（出発地と到着地）	○	○	
交通事業者ヒアリング	・ 区内公共交通の利用状況 ・ 運行実態、課題			○
地域団体へのヒアリング	・ 施設利用者の交通手段 ・ 移動困難者の課題	○	○	○

2 区民アンケート調査の概要

(1) 目的

区民の移動実態や公共交通の利用状況、移動に不便を感じていること、公共交通に関するニーズを把握します。

(2) 配布数

年齢を3区分（若年・生産年齢・老年）に分割し、各年齢階層で必要なサンプル数である約400を確保することを目指し、想定回収率を30%として約4,000を配布します。

＜必要配布数＞

- ・必要サンプル数約400：信頼水準95%、標本誤差5%
- ・年齢3区分×400サンプル÷30%=4,000配布

(3) 実施方法

住民基本台帳から無作為抽出

郵送配布・郵送またはWEB回収

(4) 分析に必要なアンケート設問

把握したい事項を明確にしたうえで、それを分析するために必要な設問を設定します。

回答しやすいように概ね20問程度とし、自由意見も含めて10～15分程度で回答できるように設計します。

<区民アンケート設問案>

把握・分析したい事項	アンケート設問案
①日常移動の把握 ・通勤通学、買物、通院等の移動実態 ・居住地と目的地の位置関係（区内/区外） ・公共交通網を重ね合わせて公共交通が不足している区間の分析	・住所・年齢・職業等の属性 ・目的別の出発地、目的地、時間帯、交通手段、外出頻度 ・最寄駅、端末交通手段
②どのような方が移動に困っているか ・困っている方の多い地域や年代 ・定時定路線型（鉄道・路線バス）のサービスだけでは対応できない区民がいるか ・駅・バス停が遠くて利用できない区民がいるか	・住所・年齢等の属性 ・駅・バス停までの徒歩時間 ・一人での外出の困難さ ・身体的な理由で駅・バス停まで歩けない
③日常生活においてどこへ行くのが不便か ・通勤通学、買物、通院等で、どこへ行くのに（区内/区外）不便を感じているか	・住所・年齢等の属性 ・目的別の出発地、目的地、移動の不便さ ・外出する際の交通手段に不便を感じているか
④日常生活以外での移動について ○池袋駅および周辺地区での移動 ・池袋駅及び駅周辺へ行きたいのに行けていない方がいるか ・池袋駅周辺での移動において重視していること ○池袋駅及び周辺地区を除く地区での移動 ・区内の観光（レジャー・娯楽等を含む）スポットへ行きたいのに行けていない方がいるか ・区内の観光スポットへの移動において重視していること	・池袋駅及び駅周辺へ行くのに不便を感じているか、その理由 ・池袋駅周辺の移動における交通手段を選択する際に重視している点（速達性・歩行距離・楽しさ・景観・快適性・車両デザイン、環境にやさしい等） ・区内の観光（レジャー・娯楽等を含む）スポットへ行くのに不便を感じているか、その場所とその理由 ・区内の観光スポットへの移動における交通手段を選択する際に重視している点（速達性・歩行距離・楽しさ・景観・快適性・車両デザイン、環境にやさしい等）
⑤公共交通のサービス水準は適しているか ・利用してもよいと思う公共交通サービスの条件 ・困っている方が利用できる公共交通サービスの条件	・公共交通を利用する条件（運賃額・運行頻度・運行時間帯・環境にやさしい車両等） ・交通手段を選択する際に重視する点（所要時間・運賃・乗換回数、環境にやさしい等）
⑥IKEBUS における移動について ・区民の IKEBUS を用いた移動ニーズの把握	・IKEBUS の利用頻度 ・IKEBUS の利用目的（買物、通院、通勤、通学、区役所訪問、レジャー、娯楽等）

⑦情報提供 ・スマートフォンの利用状況の把握 ・交通手段検索や経路検索に何を使っているか	・スマートフォンの利用状況 ・交通手段検索や経路検索のツール
⑧地域公共交通施策のニーズ把握 ・今後、取り組むべき地域公共交通施策や交通政策の意向 ・サービス水準確保のための利用者負担増加に対する考え方	・今後、特に重視すべきだと思う地域公共交通施策（運行本数の増加やダイヤの充実・運賃の低廉化・割引制度の充実・環境にやさしい公共交通の推進等） ・運賃の増加に対する考え方 ・路線バスの維持についての考え方（公費を投入して拡充・公費を投入して維持・公費を投入せず縮小）
⑨公共交通に関する満足度、改善要望	・公共交通を利用しない理由 ・公共交通サービスに関する満足度（モード別（鉄道・路線バス・IKEBUS・タクシー）） ・自由回答